

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075600108
法人名	医療法人 志成会 禰若宮医院
事業所名	グループホームやまぶき
所在地 (電話番号)	福岡県宮若市沼口967番地1 (電 話) 0949 - 55 - 8855

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	9月25日

【情報提供票より】(平成19年8月7日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 11人, 非常勤 9人, 常勤換算 11.75 人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000～40,000円		その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円	
	夕食	300円	おやつ	100円	
	または1日当たり		1,000円		

## (4) 利用者の概要(8月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	5 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	禰若宮医院 / 県立遠賀中間病院 / 蜂須賀病院 / 吉成歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの玄関前の空間は、小径として季節の木々が植えられ、森の中にいるような環境を整えている。運営母体が医療法人であり、同法人の禰若宮医院が隣接しているため、入居者や家族の方に適切な医療を必要な時に受けられる点で安心感が高いという声をいただいている。室内は広々としており、居室は、トイレ付きの部屋・和室・洋室と選択できるようになっており、入居者の暮らしの志向を反映できるように環境を整えている。外出意向の高い入居者には、入居者の様子を見守りながら、散歩に一緒に行くなど、状況を見極めながら対応され、入居者に寄り添うケアを実践されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点は、運営理念のわかりやすさ・洗剤の置き方(カーテンなどで隠す)・年間カレンダーの設置・複数の職員による金銭管理の必要性・ご意見箱の責任者名の明記など挙げられていたが、課題として真摯に取り組み結果を出す努力をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	改善点をサービスのあり方の見直しととらえ、職員全員で取り組み、結果を出している点で高く評価できる。
	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は、担当課の職員・地域代表・地域住民・同法人の医療関係者など多様な参加で定期的に開催している。運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会でもあるため、認知症の理解を高めるテーマの設定など、情報発信の場として更に活用していく取り組みが求められる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の意見・苦情などは、苦情箱を設置しているが、面会時に暮らしぶりを報告する際に意見・苦情などがあればお聞きするようにしている。意見・苦情は、法人全体の定例会議で内容の共有化を図り、問題解決に当たっている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の方がボランティアで歌や舞踊・工作など教えていただく機会を設け、地域との交流を図っている。また、法人として開催している行事(秋祭り)には、地域の方の参加を呼びかけ交流を更に高める努力を行っている。今後は、地域に開かれたグループホームとして、これまで培ってきた認知症ケアのノウハウを地域に還元する取り組みが期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

( ☐ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、わかりやすい4カ条として「一、毎日明るく楽しく過ごします 一、そばに寄り添い、ゆっくり話します 一、一人一人の個性を大切にします 一、相手の身になって考え行動します」を掲げている。法改正により、グループホームの基本方針が「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ、地域との関係性が重視される内容が理念として掲げられることが求められる。		これまで独自に作り上げられた理念があり、大変、わかりやすい内容にまとめられているが、地域密着型サービスとしての理念の内容が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、申し送り時に復唱している。また、管理者や職員は、日々利用者に関わる際に、日常の会話やケアの中で理念を具体化していくことに意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方がボランティアで歌や舞踊・工作など教えていただく機会を設け、地域との交流を図っている。また、法人として開催している行事(秋祭り)には、地域の方の参加を呼びかけ交流を更に高める努力を行っている。今後は、開かれたグループホームとして、これまで培ってきた認知症ケアのノウハウを地域に還元する取り組みが期待される。		今後は地域の方が、グループホームの存在により、地域で暮らし続けることができる、大きな社会資源であることを理解していただくための取り組みを是非期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の改善点を真摯に受け止め、職員全員でサービスのあり方の見直しの機会ととらえ、職員全員で前向きに課題として取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、担当課の職員・地域代表・地域住民・同法人の医療関係者など多彩な参加で定期的開催している。		運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会でもあるため、認知症の理解を高めるテーマの設定など、情報発信の場として更に活用していく取り組みが求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、宮若市の担当職員が参加しており、情報交換を行っているが、その他に今後の展開に関しての情報交換などを積極的に行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する取り組みが利用の方がおられず、職員の理解も全体的に十分といえない状況がある。		勉強会を開催するなど、職員の理解を高める機会や場の設定が必要である。必要な時に職員の誰もが対応できる体制が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りとして定期的に「やまぶき通信」により、ホームの計画行事やホーム独自の取り組みを紹介している。また、家族には面会時に暮らしの状況報告を行うと共に、請求書などを送付する際に入居者の写真を送るなど暮らしの報告も行っている。職員の異動については、ダメージを最小限に留めるために職員とのなじみの関係づくりを考慮して取り組んでいる。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情などは、苦情箱を設置しているが、面会時に暮らしぶりを報告する際に意見・苦情などがあればお聞きするようにしている。意見・苦情は法人全体の定例会議で内容の共有化を図り、問題解決に当たっている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットは基本的に固定化しており、その中で入居者と職員のなじみの関係づくりに取り組んでいる。現状を維持していくために、職員の交代や離職前後には、入居者や家族への説明や対応の仕方、新しい職員への引継ぎ方など具体的な対応の検討が求められる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	グループホーム協議会に加入し、人権研修を含めた研修の参加を積極的に推進している。		全職員が一律ではなく、各職員の経験や実績などを考慮し、段階的に力をつけていけるようなホームとしての研修計画が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	今後、人権教育は勉強会の中でテーマとして行う予定がある。その際に認知症高齢者のおかれている立場や意思や意欲の伝達の困難さなど、認知症高齢者特有の症状に合わせて、尊厳の尊重などを含めた勉強会を開催してほしい。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や実績を把握し、志成会全体での勉強会やグループホーム内の勉強会に参加できるように支援している。		法人全体での勉強会など、研修の機会を提供しているが、今後は、更に外部の多様な研修の機会をとらえ、外部研修受講の充実も期待したい。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のFブロック(27のグループホームが加入)に加入し、月1回の勉強会に参加している。今後は、そのネットワークを活かし、グループホーム同士の人事交流も活発に行っていきたいと考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者がなじめる様に、家族に付き添っていただいたり、家族に泊まっていたり、家族の協力を得ながら、安心してグループホームで過ごせるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中では、カレンダーの日めくりの役割をはじめ、干し柿づくり・野菜の皮むき・洗濯物たたみ・おしぼりたたみ・玄関前の植物の水やりや草取り・掃除・おやつづくりなど、入居者の能力が発揮できるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を取り入れ、日々の会話や家族の聞き取りの中で、入居者の希望や意向を把握するように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	母体が医療法人であるため、医療に関わる部分は大きな安心感が入居者・家族にもあるが、入居者の見えないニーズを汲み取ることが求められ、目標設定においては、更に具体的な目標の設定が求められる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月～6ヶ月で見直しを行っているが、入居者の状態変化や入居者の意向・家族の希望など変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療との連携によるリハビリの実施や同法人の車両を活用しての外出支援など、法人の持つ機能を活かした取り組みを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	医療法人のため、同法人の医療機関が主治医になっているケースが多い。週1回歯科医の往診があり、STが月2回往診している。入居者の眼科・整形外科・泌尿科のかかりつけ医には、病院への送迎を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	グループホーム独自の「重度化及び看取りに関する指針」を定め、看取りの看護体制など医療との連携・協力が明確に示されている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	事務所内の決められた場所に個人ファイルなど保管され、プライバシーに配慮した対応を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	現在、入居者の重度化に伴い、個別の対応が難しい状況にあるが、医療とのネットワークを活かし、個別性を重視した取り組みが求められる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	同法人の老健施設の栄養士が、栄養バランスやカロリー摂取量を考慮し献立を決めており、グループホームで献立にそって料理を提供している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	土・日以外は、希望があれば、毎日入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日の暮らしの中で入居者の能力が発揮できるように役割を持っていたりしている。風船バレーやそうめん流しなどの行事を楽しんでいただけるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	重度の方が多く、車椅子を利用する方も多い中、散歩やドライブなどの機会を作り外出しているが、車椅子対応の車両があれば、更に外出の機会を増やすことができるのではないかと考えられる。今後の中で車椅子対応の車両の検討もお願いしたい。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけることはなく、玄関前の事務所に玄関の出入りがわかる監視用のテレビが設置され、職員の目が届く用に工夫されている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的に半年に一度、消防署の協力を得て、消防訓練を行い、迅速な対応ができるように努めている。		消防訓練は、職員だけの誘導の限界をふまえて、地域住民の参加・協力を得ることが求められている。運営推進会議で地域の協力をお願いするなど検討を行ってほしい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	生活リズム・パターン・シートがあり、食事の量や水分摂取量・排泄など、時間別にチェックしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、広々としており、畳みのコーナーがあり、ゆったりと過ごせる空間となっている。テーブルや椅子も複数あり、思い思いに過ごせるように工夫している。また、共用空間には、観葉植物を置き、室内・室外共に緑を楽しめる様に工夫されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は和室と洋室を選択でき、各居室には、空間を広く使用できる様にクローゼットが備え付けられている。仏壇なども持ち込まれている方がおり、入居者本人が居心地よく過ごせるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			